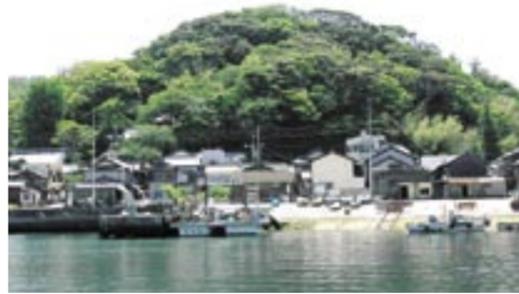


観光客誘致に3市で一丸

国が淡路島を「観光圏」として認定



▲「おかえりなさい、神話のふるさと淡路島」をテーマに、島内各地で様々な事業が行われます（写真は沼島）

10月1日、観光圏整備法に基づき「観光圏」として、淡路島が全国で16地域のうちのひとつとして国から認定されました。これにより、国の補助金や法律の特例などを活用し、2泊3日以上滞在型観光の整備が進められます。観光庁では、観光立国の実現に向けて、国際競争力の高い魅力ある観光地の形成を促進するため、複数の観光地の連携により観光客の来訪・滞在を促進する地域「観光圏」

の形成を進めてきました。この動きの中、8月、淡路島の観光に関わる3市の観光協会や県市など淡路島観光圏協議会を設立。あわせて淡路島観光圏整備計画を策定し、認定申請を行っていました。今後、地理的特性や多彩で豊富な資源を活用し、交流人口の拡大と地域の活性化を図るための事業が進められます。 ※観光圏整備実施計画の期間は、平成25年3月31日まで

外国人の就学をサポート

就学ガイダンスを開催

教育委員会では、市内の外国人児童と保護者を対象に、中学校の学校生活と高校受験の準備について説明する「就学ガイダンス」を10月26日、西淡公民館で開催しました。当日、中国やブラジル、ペルー国籍の親子30人が出席。県教育委員会の職員が中学校の学校行事や高校受験、高校生活などの説明をした後、経験者からの体験発表として、中学生と高校生、大学生、社会人の4人の外国人から話が

ありました。言葉のハンディを乗り越えるために、早め準備をすることが大切だと参加者へ呼びかけていました。この日に併せて、NGO神戸外国人救済ネットが、ピザや仕事、健康などの問題に対処する生活相談も実施。また、南あわじ市国際交流協会と市教育委員会の共催事業「国際交流サロン」も開かれ、ブラジル料理の講習と試食会で交流が深められました。



▲外国人児童と家族に説明する県教委職員

幼稚園ウィークが始まる

幼稚園ウィークが始まる



▲幼稚園児と一緒に園内で遊ぶ未就園児

幼稚園の雰囲気を楽しんでもらおうと、6か所の市立幼稚園で「幼稚園ウィーク」が行われています。11月17日、未就園児の親子を対象に幼稚園の開放が行われました。津井幼稚園では、25組の親子が訪れ、幼稚園内の遊具や砂遊びで楽しそうに遊んでいました。また、幼稚園児の工作や絵画作品を展示する「造形展」も西淡公民館とシールパで開催され、多くの来場者の目を惹きつけていました。幼稚園ウィークは、12月も開催しています。（16・24頁に関連記事）

南淡中学校で人権教育研究発表会

南淡中学校で人権教育研究発表会

11月12日、文部科学省人権教育研究指定校として19・20年度取り組んでいる南淡中学校で、人権教育研究発表会が行われました。この日、各地の人権教育関係者や保護者ら600人が訪問。公開授業や親子人権講演会、シンポジウムが行われました。全体会では、人権文化が根付く学校や社会づくりに向けて、生徒と共に取り組んだ成果が発表されました。



▲人権問題の各種テーマごとに行われた公開授業

自治会、支部制度を廃止

自治会、支部制度を廃止

南あわじ市連合自治会（伊達勝繁会長）が、組織をより効率的に運営するため、これまで旧町単位にあった4支部（緑、西淡、三原、南淡）を廃止するなど組織の再編を行いました。これにより来年度の役員改選時から市内203の自治会の地区代表から理事（21人）が選出されます。11月13日、市役所中央庁舎で臨時役員総会が行われ、新たな組織編成の承認と、会則の改正を行いました。



▲自治会臨時総会で方針が決定（11月13日）

技能功労者を表彰

技能功労者を表彰

永年優れた技能で、地域社会の発展に貢献した方の功績を讃える「南あわじ市技能功労者表彰式」が11月23日、三原市民センターで行われ、次の17人に市長から表彰楯が手渡されました。
伊達 利夫（年齢順、敬称略）
原口 昌大（神代、建具職）
山下 和美（志知、建具職）
上川 和己（志知、大工）
原口 勉（榎列、製菓衛生師）

木戸 里明（市、理容師）
興津 章（津井、製瓦職）
桐原 勝（福良、鉄工）
中川 博（松帆、鉄工）
原 富男（阿万、製瓦職）
丸山 修司（市、電気工事士）
阿部眞智子（阿万、美容師）
山崎 信政（阿那賀、電気工事士）
榎本清一郎（市、昼職）
柏木 渡（福良、製麺）
居内 正博（松帆、左官）
的崎 俊英（広田、自動車整備士）



▲中田市長に寄附金を手渡す川原さん(右)

ふるさと納税

ふるさと納税

ふるさと南あわじ応援寄附金
寄附状況の公表 (11月18日現在)

区分	件数	金額
南あわじ市内	37件	15,998,000円
市外(島内)	3件	205,000円
市外(島外)	9件	1,754,140円
合計	49件	17,957,140円

詳細は市のホームページに掲載しています

高額寄附

高額寄附

川原啓亮さん（八木）が、古希を迎えた記念にと、南あわじ市へ100万円を寄附されました。10月22日、中田市長に「市の活性化のために活用してください」と手渡されました。

ふれあい市長室

ふれあい市長室

現在の、防災対策を最重要課題の一つとして力を注いでおりますが、自主防災組織の設立や小中学校の耐震化率100%など、各地域や関係者の皆様のご協力により一定の成果が表れてまいりました。心より感謝申し上げます。しかし、巨額の費用を必要とする事業は簡単には実現できません。国や県への陳情を重ね、重要性・緊急性を繰り返して訴え、執念を持って食い下がらないと採択されません。その努力も実り、懸案事項だった低地帯の防災対策には、多額の予算を想定した三原川水系河川整備計画がやっと動き出すことができます。一方、南の玄関口として重要な位置づけをしている福良地区では、京都大学防災研究所長の河田先生などのご尽力もいただき、福良津波防災ステーションの建設や護岸改良など約30億円を投じて「みなと振興整備事業」を進めることができようになりました。併せて、同事業の特認で、高齢化率30%を超える福良地

区活性化と淡路人形浄瑠璃という地方の時代にふさわしいこの財産を最大限に活かすため、淡路人形会館（仮称）の建設を進めることができるようになりました。淡路人形会館は、淡路人形座の移転に伴う集客力の増強をめざし、福良地区活性化の呼び水にしたいと考えております。また、後継者を育成するための練習場等を整備し、人形座員の指導体制を強化しながら保存伝承に尚一層力を注いでまいりたいと存じます。先日、徳島県と兵庫県の連携による「地域再生のしかけづくりの方策」が両県の知事同士で合意され、その中で人形浄瑠璃による活性化も取り上げられました。また先般も、文化庁へ陳情に上がり、世界に誇れる地域財産への支援をお願いしてまいりました。今後共、地道な活動を積み重ねながらも、少しの可能性や時期・機会を逃さず、積極的に挑戦してまいりたいと思